

住み慣れた故郷の再発見

高等部 最優秀賞 趙研志(Jo Yeon Ji)

こんにちは。江陵女子高等学校の趙研志と申します。

参加者の皆さんはほとんどが都会に住んでいらっしゃるようですが、皆さんは、田舎に住んでみたことがありますか。私は今まで3つの都市に住んでみましたが、どちらも田舎ないしは小都市でした。

いま住んでいる江陵は前の2ヶ所に比べると発展した都市ですが、それでも10代の子にはつまらないだけでした。コンサートでも見なくなったらソウルまで行かないといけないし、それなのに高速道路は海とスキーで混むし、有名チェーン店は入店してこないのに最近では携帯屋ばかり出来るし、江陵に住んでいると言うとバーガーキングとかある？とか聞かれるし、しかもバーガーキングないし、とにかく嫌なところが多すぎて、どうしても好きになれなかったのです。それは私だけでなく友達も同じだったようで、早く大学に入って江陵を離れたいとよく話し合いました。それまでの自分の故郷へのイメージは、最悪だったのです。

ですがある日をきっかけに、私はそのイメージを完全に塗り替えることになりました。日本のブログサイトで知り合った日本人が、私に「前に江陵に行ってみただけど、すごく良かったよ」と言ったのでした。その時、私は江陵に外人が来て楽しむようなものがあるのか、と疑問に思いました。でも話を聞くと、町並みやカフェ、マックスなどが好きだったと言われ、正直びっくりしました。それらは普段、特別だと思ったことが一度もないものだったからです。

その日、私は地元の人が思う「特別」と、他の地方の人が思う「特別」は違うということを知

りました。故郷があまり好きではなかったものの、やはり褒められると嬉しくなり、今度は、外人はこういうものを面白く感じるかな、などと日常の些細なものを意識し始めました。そうしたら今まで軽視していた故郷の魅力が目に入りました。コンサートは滅多に出来ないけど、独立映画だけはいっぱい見れます。有名チェーン店は少ないけど、小さなカフェがたくさんあります。何もなかったところには澄んだ空気がありました。少し違った角度で見ると、全てが楽しい場所だったのです。

これは、特に江陵が飛び抜けて良いからではありません。何処のどんな町にもそれぞれの魅力があるのに、私達がそれに気付いていないだけです。想像してみてください。私達が外人で、この町に初めて来た旅行者だとしても、この風景が味気なく見えるでしょうか。たぶん、アスファルトの色にすら感動するでしょう。ふとした瞬間、人を魅了するのは、意外と小さなものにあります。もう慣れている場所を愛すというのは、そんなちっぽけなものに目を向けなおすことだと、私は思います。

これまで私の故郷の話をしてきましたが、皆さんの感じる故郷はどんなところでしょうか。ひょっとして、昔の私のように「ここどこが良いのか分からない」と、ぼやいてはいませんか。もうそんな考えはくちやくちやにして、たまには旅人の気分で、少し恥ずかしいけど観光地で写真も撮りながら、地元の旅行をしてみましよう。きっと、その中で見逃していた新しいものが見つかるはずですよ。

ご清聴、ありがとうございました。

日本語が教えてくれたもの

高等部 金賞 承ガラム(Seung Ga Ram)

皆さん、こんにちは。私は善一高校のスンガラムと申します。今日は日本語が教えてくれたものというタイトルでスピーチさせていただきます。

宜しくお願いします。

私は日本の文化が大好きで14歳の時から日本語の勉強をして来ています。もちろん、まだ日

本語がそんなに上手ではないですが、日本語を勉強しながら得られたものがたくさんあります。

その一つ目は楽しむことの大切さです。日本語の勉強を始めた時、私は日本語の挨拶さえも知りませんでした。それでも日本語が好きで日本語の勉強が楽しかったです。独で日本語を勉強するのはもちろん大変でしたが、知らなかった単語をひとつ覚えてだけでも嬉しくなりましたし、殆ど聞き取れないラジオもなぜかとても面白くて一日5時間以上日本語を聞いたりもしました。また、暇ができたらいつも日本語の作文の練習をしていました。こんな風に日本語を楽しんだからこそここまで頑張ってきたと思います。

二つ目は人間関係です。日本語は私に広い世界を見せてくれました。日本語の勉強をしながら一緒に日本語の勉強をする友達にもたくさん会えました。また、日本人の友達もできました。たくさんの人と出会って世の中にはいろんな考えを持った人がいることが分かりました。昔の狭い世界に住んでいた私なら自分と考えが違うということだけで気嫌っていたかも知れません。このように人間関係が広がって私はもっと広い視野を持てるようになりました。今の人間関係は簡単に得られた人間関係ではないのでこれからも大事にして生きてみたいです。

三つ目は最後まで貫くことの大切さです。日本語の勉強は今も昔も大好きですが、それでも

挫けそうになったことがあります。4年前はどうしてもひらがなは覚えられないと思っていました。それに、2年前は漢字の壁を越えられず立ち止まってしまっていました。そんな時は日本語を始めた頃に書いた日記帳を読み返して自分の心確かめました。もし私がその時日本語の勉強を諦めていたら今ここで皆さんの前でスピーチすることはできなかったのでしょうか。何事も実を得るためには時間をかけなければならないということが分かりました。

四つ目はコミュニケーションの難しさです。いくら日本語が話せても自分の気持ちを相手に伝えるのは難しいです。一年前、日本の方のお宅でホームステイさせて頂いた事がありました。私のために日本の伝統料理を作って下さったり、事前に観光地を調べて案内して下さいたり、その他にもいろいろ気を使って下さって本当に嬉しかったのにありがとうございますと言う当たり前なフレーズでしか自分の気持ちを伝えられなかったことが悔しかったです。このことだけではなく私はいろんな方にお世話になりながら生きています。お世話になった皆さんに私の気持ちを分かってもらえるように努力したいと思います。

この四つは日本語が私に教えてくれた宝物です。これからもこの宝物を大事にして自分の道を進んで生きてみたいです。

ご清聴ありがとうございました。

ファストラビット

高等部 銀賞 崔智嫻(Choi Ji Won)

私が日本語を学んでよかったと思うことはより多くの友だちと付き合えるようになったこと、また、その国を理解するようになり、客観的に自分の国や世界を見ることができたことです。さらに色々な種類の文学を接することができたことなどがありますがその中でも最もよかったと思うことは日本の本や歌、映画など素敵な日本の文化と出会うことができたことだと思います。最近、私が好きになったのは日本の有名な放送作家であり作

詞家でもある秋元康が作詞した『ファストラビット』という曲です。

この曲はひとつのストーリーで構成されています。暗い森の中で、住むところを探して何匹かのウサギたちが迷っていました。そうするうち、ウサギの群れはある「ホラアナ」を見つけました。けれども、もしかするとその中には狼など怖い何かが隠れて待っているのではないかという恐れで、どのウサギも「ホラアナ」に入らず、その前で迷

っているだけでした。しかし、そのなかで一匹のウサギが進んで「ホラアナ」に足を向けます。

『ファストラビット』、つまり、皆がどうするか分からず迷っている時、勇気を出して未知の世界にすすむ「最初のウサギ」とは自分の夢や目標に向かって勇気を持って恐れず一歩を踏み出す姿をいいます。

今の私の年ごろの人たちは未来のためにそれなりの準備をしています。でも「まだ知らぬその未来」は不安で「本当にこの道が私に合っているのか」、「このままで大丈夫なのか」などで悩んだり迷ったりしてしまうことが多くあります。しかし、そういう時こそ失敗を恐れずに『ファストラビット』にならなければならないと思います。

私が日本語を勉強したいと思ったのは中学1年生の時でした。だが、まだ中学に入ったばかりで、勉強も小学校とは違って大変なところが多かったので、親は私が日本語の勉強のため時間を割いていることに反対しました。それでも、私は友だちと一緒に自ら本を買って勉強を始めました。しかし、勉強をするにつれ漢字が多くなったり難しくなったりして一緒に勉強をした友だちは諦めてしまい、私一人で勉強を続けることになりました。勉強は嫌いだった私でしたが、日本語の勉強はす

ればするほど面白くてもっと興味がわいてきました。難しくなったら諦めると思っていた親も、私が高校1年生になった時、やっと私の勉強と韓国と日本の文化交流に一助したいという自分の夢に支援を約束してくれました。そして、今、この場で私がスピーチをしていることも私が『ファストラビット』になっていく過程の一つです。最近は何の目を意識したあまり、自分の未来に関連する選択の岐路に立たされた時、無難な道を選んでしまう人が沢山います。けれども私の考えでは自分の信念に基づいた生き方を貫くためには『ファストラビット』のような勇気が要ると思います。

私は自分の夢を実現するために日本語を選んだのを後悔しません。私が日本語の勉強を始めて得たのは、やればできるという自信をつけたこと、ひいては、日韓の友好関係に役立ちたいという私の夢に近づいたことです。私の人生において日本語は欠かせないものになりました。これからも私は未知の未来のために『ファストラビット』になって走り続けるつもりです。みなさんも自分なりの『ファストラビット』になって未来の扉を開いてみたらどうでしょうか。

新しい自分へのミチシルベ

高等部 銅賞 尹曉貞(Yoon Hyo Jeong)

皆さん、こんにちは。私は清涼高校2年生のユン・ヒョジョンと申します。今日この大会に参加でき、とても光栄です。それでは私の話を始めたいと思います。

まず、申し訳ないですけど、こちらに注目して頂けませんか。皆さんご覧の通り、私は背が低い方です。後ろ姿だけで見れば小学生の中にも誰も高校生だと気付いてくれません。これは私の切ない実話です。受け入れ方によってはただ面白い出来事かも知れませんが、私は子供の頃からずっとこのことに足を引っ張られていました。背が低いという理由だけで望んでもないのに目立ってしまい、これがどんどん私を萎縮させ、結局性格

まで変えてしまいました。後ろ向きで内気な性格になり、ありのままの自分で相手と向き合うのが怖くて逃げてばかりいました。外見もさることながら何事についてもいつも自信がなかったのです。成績も今一でこれといった取り柄もなかったのでネガティブな性格になる一方だったのは尚更のことでした。しかし、そんな駄目な私にも変化のチャンスが訪れてきました。

それが日本語だったのです。中学1年生の頃、偶然日本のドラマを接したことをきっかけにもうすっかり日本語に夢中になってしまいました。今まで学校で学んできたものとは違う、新しい魅力を感じたからです。それですぐにでも日本語の勉

強をしたかったのですが、思いにも寄らなかった親の猛反対に、私はいつものようにまた挫けそうになりました。しかし '日本語' という機会だけは絶対に逃したくありませんでした。もうこんなに意気地もなく優柔不断のまま諦めるわけにはいかなかったからです。それで、日本語を学んでもいいという親の承諾を得るまで1年間ずっと待ち続けた結果、初めて自分の意志を貫くことができました。まさに私の中で日本語という確な軸ができた瞬間だったのです。

それから私は夜遅くまで原書を読んで訳してみたり、ドラマの主人公になってセリフを覚えてみたり、自分が選んだこの道に悔いがないように寝る間も惜しみながら一生懸命勉強しています。あと、2年前ミュージカルを観に行った時に偶然隣

の席だった日本人のおばさんとも友達になり、お互いの国を分かり合えるように小さな努力ながらもこの出会いを大切にしています。

もちろん、今まで何もかもが順調だったわけはありません。しかし何か問題ができ、目の前が真っ暗になるたびに私は日本語からそれを跳ね返す強さと根気、そして今の自分を認めることが自身だということを教えてもらいました。日本語と一緒にする細やかな日々はいつの間にか私の幸せであり、力となっています。

これからもこの前向きな心構えを忘れずに、毎日1%ずつ成長する自分を目指して頑張っていきたいと思っています。日本語を続けている限り、私に '諦め' という言葉はないからです。

ご清聴ありがとうございました。

適度な適当さの知恵

高等部 優秀賞 邊漢榮(Byeon Han Yeong)

みなさん、こんにちは。キョンギ外国語高校2年生のピョン・ハニョンと申します。今日は私たちが日常の中でちょくちょく耳にする、「適当に」という言葉について話したいと思います。

この言葉は、「適当にすればいいさ」とか「適当にやってくれ」などの表現に用いられ、私たちはほぼ毎日、この言葉を言ったり聞いたりしながら暮らしていると思います。ところで一体、この「適当」という言葉って、どういう意味を持っているのでしょうか。

辞書を引いてみると、「適当」とは、「ある状態や目的などに、ほどよくあてはまること」あるいは「その場にあわせて要領よくやること」と定義されているそうです。

しかし私たちは一般的に「適当にやる」という言葉を聞くと、ネガティブな印象を持ちがちです。たぶんそれは、「適当に」という言葉に、自分の都合に合わせた自分勝手なことだという認識が含まれていると感じるからかもしれませんね。それで社会の中でも「仕事を適当にごまかしてはいけない」、「適当主義は断ち切らなければならない」と唱える人も多いのでしょうか。

でも考えてみれば、今の社会はいかにも適当ではなさすぎます。いつも適当であることを警戒していて、みんな気を緩めることもなく緊張した状態で毎日を過ごしています。完璧でない以上、油断はできないということです。追いつ追われつの競争の中で、適当さとは人に追い越される一番の原因だと思われるのでしょうか。

しかしここでもう一度、「適当」の意味を思い浮かべてみましょう。私は前から「どうして人々は適当を悪く思っただけにいたりするんだろう」と思い、かばんの中にあつた広辞苑を開いて、「適当」の意味を調べてみたのです。それから考えに考えた末、ふと思いつきました。「適当」という言葉の中に隠されている本当の意味はそんなに安易な考え方ではないということ。そして私なりに解釈していった結果、「適当」という言葉が持つ、いちばん肝心な二つの意味にとうとうたどり着くことができました。そのふたつの意味とは、まず自分の目的や目標を定めて努力すること。そして余裕を持って要領よくやるということです。

まず、自分の目標を定めて努力するという意味についていくつかの例をあげてみましょう。試験

ではいつも、「一番適当な答えを選びなさい」と言います。会社では「わが社の発展において適当な人材」を求めているし、ダイエットをする人には「適当な量」の食べ物が必要です。このように、目的や目標はそれぞれですが、いずれも自分の目標を達成するべく、一生懸命がんばっているのです。しかし、そうかといって、それが完璧主義や、競争意識を招くわけではありません。自分が設定した目的が果たせたら、それで満足し、それ以上欲張らないことが大事だというのがまさに「適当さ」なのです。

そして二つ目の「余裕を持って要領よくやること」。世間は「余裕」そして「要領」は禁物だとする見方が多いですが、私はそう思いません。むしろ完璧主義と競争意識が人々を息苦しくさせ、何事につけ劣等感を抱かせて、結局は我々を絶望感に陥らせる大きな要因になると思います。要領

よくやるということはコツをつかんだ上でのことであり、それはその仕事を何度か繰り返していつはじめてできるようになるのです。それでももうその仕事は腕に覚えがあり、自分が思う「適度な適当さ」が見つければ、そこから余裕を持って仕事をやり遂げられる能力が生まれるのです。

無理をすれば疲れてしまう。ぼんやりしていれば仕事は何もはかどらない。みなさんもみなさんなりの「適度な適当さ」に気づき、これからは「適当に」という気持ちで、与えられた仕事をうまくやりこなせたら「よくやった、自分！」とほめてあげるのはいかがでしょうか。きっと、もっと気楽で、もっと有意義な日々が始まると思います。これで私の発表を終わらせていただきます。ここまでお聞きいただき、どうもありがとうございました。

私達は死んで行きます

中等部 最優秀賞 趙頌熙(Jo Song Hee)

皆さんおはようございます。

私は清心国際中学校の趙頌熙と申します。

今日は、少し重いですが、とても大事な話をしようと思います。

皆さんは、人はいつ死ぬと思いますか。心臓の鼓動が止まる時、息が止まる時、それらはもちろん正解です。でもこんなのはどうでしょうか。人は「コミュニケーションを止める時」死ぬんです。なぜなら私達人間はいつでも本能的にコミュニケーションを求めているからです。例えば親しい人が死んだとき感じるその気持ちは「もう彼と話すことはできない、もう二度と彼と心を分かち合うことはできない」と思うからこそ感じるものではないでしょうか。つまり、私達にとってコミュニケーションは、生きていくのとおこなわれる自然な行動なのです。でも、あいにく現代社会の人々にとって、コミュニケーションは自然ではなくなり始めています。人々間のコミュニケーションは減り、一つの社会が丸ごと死んで行きます。私達の通信機械は恐ろしい速さで発達してい

るのに、なぜか私達は周りの人々とは遠ざかって行くのです。俗に「人間疎外」と呼ばれるこの現象は、人間が自分の作ったものに主客転倒されてしまい、それによって人が元々持っている「人間性」を失っていくことを示します。つまり、私達はいつの間にか周りの人々を人ではなくある役目を与えられた無機質であるかのように扱っているのです。これは私達の社会にとってとても深刻な問題です。現代社会に存在するさまざまな問題のほとんどがこの「人間疎外」から始まるからです。徐々に残酷になって行く犯罪も、最近大きな騒ぎになっている学校内暴力も、増加している離婚率も、全部人々のコミュニケーションの消失が招いた悲劇なのです。では、私達はどうすればいいのでしょうか。ただここで立ちすくんでいるわけにはいきません。私が考えてきた答えはそんなに立派なものではありません。でも、この問題を解決するためには他の何よりも効果的なものにちがいないと私は確信します。みんな自分から、自分の一番近い人に、「本当のコミュニケーション」を

してみましょう。親しい友達の悩み事は聞いてあげましょう。両親にも久しぶりに心の中を打ち明けてみましょう。周りの人に温かい態度で話しかけましょう。少しずつ広がっていくあなたの優し

さは、他の人をきっと変えられるでしょう。今でも遅くはありません。一人でも怖くはないです。全ては、一人の人間から始まり、世界をいい方向に変え始めることができるからです。

私のおじいさん

中等部 金賞 申花媛(Shin Hwa Won)

私は2005年の夏、初めて日本へ行っておじいさんに会いました。

私のおじいさんは韓国語が全然できない日本人です。

私は偶然に一枚の写真を見ました。

それは母の幼い頃の家族写真でした。

しかし、その写真のおじいさんは私の知っているおじいさんではありませんでした。

それで私はその日から母に何度も何度も質問していました。

「お母さん！お母さんのお父さんは日本人なのに、お母さんはどうして日本語ができないの？」

「おじいさんは何で韓国語ができないの？」
母は私と妹を座らせてあの質問に答えてくれました。

それは今のおじいさんが本当の私のおじいさんではないということでした。

元のおじいさんが亡くなっておばあさんは一人で母を育て、母の結婚後、今のおじいさんと再婚をしたのです。

私は今まで友達が聞かれた時は「うちのおじいさんは日本人だよ。」と自慢するように言っていました。

事実を知って衝撃を受けていた私はもう日本語の勉強をしたくありませんでした。

急におじいさんとおばあさんが交通事故に遭って、手術をすることになりました。

父も会社を休んでそれから私達は日本へ行くことになりました。

その時のおじいさんはなんだか遠く感じられました。

おじいさんは私のためにゆっくりと易しい言葉で、話していることも知っていたのですが、私は全然

わからないふりをしておじいさんとの会話から逃げていました。

小学校に入って英語より日本語がもっと好きで先に勉強を始めたし、日本へ行くたびにおじいさんとよく話していた私でしたが、わざとおじいさんがわからないように韓国語だけで話しました。

おじいさんは昔は肩車もしてくれましたし、ディズニールランドにも一緒に行くほど健康でしたが、もう毎日薬を飲まないといけなくなり、運転もできず、足も不自由になってしまいました。

事故以来、体が弱くなったおじいさんに私はいらいらしていました。

その時はいいものも悪く見せてしまう、まるで魔法のメガネでもかけたかのように、おじいさんの全てが嫌いでした。

そしてあっという間に三泊四日が過ぎて、おじいさんはいつものように空港で泣いていました。

いつもだったらもっとおじいさんと一緒にいたいと無理を言う私でしたが、その時は逃げるようにその場を離れました。

ある日、久しぶりにアルバムを見たら、母の写真は無くなっており、代わりに私たち姉妹の写真しかありませんでした。その中で、おじいさんと水族館へ行って一緒に撮った写真を見るとおじいさんが作ってくれたホットケーキのことを思い出しました。そのホットケーキは、どこのものよりもおいしい私の思い出のホットケーキでした。私は果物の中ですいかが一番好きです。それを知っているおじいさんは家の庭にすいかを植えて育ててくれるほど私のことなら何でもしてくれました。おじいさんがあの時、どうして私の態度がいきなり変わったのかも分かっているかもしれないと思うと、非常に恥ずかしくなります。

早く電話をかけてあのときのことを謝りたかったのですが、結局何も言えずに電話を切りました。たぶんこのままだと一生あの時のことは言えないかもしれません。もしかしたら無理に言わなくても全部分かって理解してくれるという勝手な考えまでしてしまいます。でも私は、過去のことは全部忘れてこれからのこ

とだけ考えようと思っています。なぜなら、私にとっておじいさんは一人しかいないのですから。今度の夏休みにおじいさんに会えるなら、その時におじいさんと楽しく会話がしたいです。今考えてみると、あの時はどうしてそんなに辛かったのかわかりません。今の私は、再び楽しく日本語の勉強をしています。

学ぶことの嬉しさ

中等部 銀賞 崔丙進(Choi Ye Jin)

こんにちは。

私は慶州の善徳女子中学校3年のチェ イェジンと申します。

皆さん、皆さんの今まで一番嬉しかったことは何ですか?そして、今までしていたことの中で一番して良かったと思っているのは何ですか?

私にとっては日本語を勉強し始めたことが一番して良かったと思います。

私の親友の中でお母さんが日本の方がいます。小学生の時からたまたまその親友の家に遊びにいたりしながらその方から漠然としましたが日本語で挨拶表現とか簡単な日本語、文化を学びました。日本という国に興味ができ、それを切っ掛けで日本語も勉強し始めました。

始めて日本語を接した時は日本語というのは発音や表現などが本当に可愛いく、優しい感じの言語でした。だんだんひらがなが読めるようになり書けるようになりその時の嬉しさ、楽しさは今でも忘れられません。

私が小学校6年生の時学校での日本との交流会に参加したことがあります。

そこで同い年の日本の友だちと出会いました。その時片言の日本語でしたがその友達と話して、始めてコミュニケーションの嬉しさを感じました。実際に日本にいつか来てからはもっと日本語で話したく、体系的に学びたいと思いました。一人で勉強した時、間違えて使った表現を習いなおしながら日本語の勉強の喜びもわかるようになりました。こうして今までずっと日本語を勉強するようになりました。また私の日本語の

実力を確認するために日本語能力試験やjptなどの日本語の試験も準備したりもしました。試験というのはただ誰かに見せるためではなく、弱点が分かる良いシステムだと思います。それで試験の勉強にも怠けずにしてきました。

日本語が少しずつ上手になり日本の歌手とか日本の文化に興味を持つようになりました。

それで今は慶州・福岡の福津との民間交流会にも毎年参加しています。そこで日本に行ってホームステイをしたり色々な方に会いました。今も手紙したりたまには電話もしています。

そして慶州で行われている文化財紹介大会にも日本語で毎年参加しています。

このように日本語は私に色々なことを経験するようしてくれました。そして今は外国語に自信を持つようになりほかの外国語も挑戦し、勉強し始めました。もちろん日本語も頑張っています。日本語は漢字がとても難しくていつも大変ですけど、私が日本人のように日本語を話せる、読める時を楽しみながら頑張ります。

そして新しい趣味も持つようになりました。それは退屈なとき日本のテレビチャンネルを観ることです。面白い番組も多いし、日本語の勉強にも役に立てて良いと思います。このように日本語は私にとってとても大切な言語です。

日本語のおかげで私は学ぶことの嬉しさを感じるようになりました。本当にありがたいだとも思います。

いつまでもこの気持忘れずに頑張りたいと思います。ありがとうございました。

これからは近くなっていかなければならない国, '日本'

中等部 銅賞 柳瑞禹(Yoo Seo Woo)

こんにちは。みなさん。私はセッピーオル中学校1年 ユ ソウです。私は小学校 6年生の時、日本で開かれた韓 中 日の童話交流大会で、韓国の代表で参加しました。

韓 中 日の童話交流大会は、韓国、中国、日本の 3ヶ国の子供たちが集まって、体験学習と読書活動を通じて相互の文化の特性を学び、お互いを理解する機会を持つようにするため、日本の国会議員たちが基金が集めて 2002年から開催している大会だと聞きました。

私はこの大会に参加して日本という国、日本の文化、そして日本の学生たちから、多くのことを学んで帰って来ました。実際にほんは私が歴史書を通じて単純に分かっていた日本とはあまりにも差がありました。

私は今日、私が直接行って経験してきた日本の文化と 日本人に対してより分かるようになった点をみなさんと分かちあいたいと思い、この席に立ちました。

実は日本へ行く前は、私たちの国 韓国を侵略して 36年間も支配した国、韓国の独立家たちを拷問した国、韓国の国母である明成王妃を弑害した国など 教科書や、先生を通じて学んだ日本に対する悪いイメージがあり、あまり親しくしたくない国だと思っていました。

しかし、私のこのような日本に対する考えは飛行機を降りて 日本に足を踏み入れたその瞬間変わりました。

私の日本に対する第一印象は、'路頭にごみがないきれいな国'、道ばたにごみ一つなく日本人の秩序意識の高さにおどろきました。

行事が進行されながら、日本の伝統文化を体験する機会がありましたが、北海道のアイヌ民族の踊りを習いながら、日本人たちは自分たちの古

い昔のことを大事にして伝統を重視する民族なんだなあと思いました。

それから、日本人たちは小さな約束 一つでもよく守ると思いました。

大会で3ヶ国の子供たちが8時に集まる約束をしました。私と友だちは8時に部屋を出て、約束の時間を5分遅れて着きました。

ところが、日本の友達も皆約束場所にいたので、何時からここにいるのか尋ねたところ約束の時間の5分前にいたとのことでした。日本の友達は、いつも約束の5分前に行くのが習慣になっていると聞き、驚きました。

そして、約束に遅れてきた自分に、恥ずかしく思うと同時に反省をしました。

韓 中 日の童話交流大会に参加しながら日本の学生たちが私に見せてくれた親切、やさしいほほえみ、正直さ、彼らから多くのことを学びました。

特に日本の国会議員たちが未来の韓 中 日の子供たちのために、このような意義ある大会を主催し何年間も開催してきているなんて本当にありがたいと思いました。

Tvでたまに韓国の何人かの国会議員たちが争っているのを見ると彼らも日本の国会議員たちのように子供たちのために韓 中 日の童話交流大会のような良い大会を作ってくれたらいいなと思ったりしました。

韓 中 日の童話交流大会に一回だけの参加で日本のすべてのことが分かることはやっぱり難しいですが、少なくとも日本に対する否定的な考えから、将来一緒に平和を考え、地球の難しい問題を一緒に解いていき、これから仲良くしていきたい国と肯定的に私の認識を変えるきっかけになりました。ありがとうございました。

私にとって日本語は

中等部 優秀賞 金賢玟(Kim Hyeon Min)

皆様、はじめまして。 私は 金海林虎中学校の 三年生の金賢玟と申します。

私が 初めて日本語に接したのは、小学校4年生の頃、日本のアニメを始めて見た時でした。

ところで、いつものようにアニメを見ていた時でした。見ていたアニメの続きを見るために次のファイルを気持ち良くクリックしましたが、残念ながらそのファイルには字幕がなかったのです。アニメのキャラクターの言っていることが何の話なのか全く理解できませんでした。おもしろい所の真っ最中だったのに聞き取れなかったのもどかしくて堪らなかつたです。それにまちがっている字幕も時々あつたのです。それで私は私のような人がいなくなるように日本語を頑張って勉強して、自ら字幕を正確に作ってみようと考えました。

そのように日本語を習いたかつた私の前に、予想外の障害物が現れました。 私の両親が「英語でも一生懸命勉強しろ！」とおっしゃつたのです。 私は3ヶ月の間ずっと両親にせがみながら説得しました。 私がそこまでして何かをやりたかつたのはそれが初めてだつたと思います。 3ヶ月の間毎日のように両親にせがんだり説得したりしたあげく、許してもらつた時は、とてもうれしくて寝ることができなかつたくらいでした。

でも、実際に始めた時は、本当に私が 何故これをしようとしたのだろうというくらい後悔するほど日本語の勉強は大変でしたが、私は努力し続けました。“自分がしようといつて始めたことだから、「最後まで頑張ろう」という考えで一生懸命勉強した結果、消極的だつた私が日本語のおかげで友人と付き合つたり、先生達の目についたりするようになりました。しかし、私はこのように注目されながら、私が一番日本語が上手だといううぬぼれに陥ることになつてしまいました。

そうするうちに、日本の琵琶湖に一週間キャンプに行くことになりました。

そこでは先生を除いては日本語を話すことができる人がいませんでした。 当然私の日本語の実力に自信を持っていたし、子供たちの話しぐらひは難くなく通訳をしてあげて子供たちのヒーローになろう! というのが私の計画でした。しかし、実際に日本人の友達との対話は言葉がとて速すぎたので「ほんとう?」とか、「そうなの?」ぐらひのあいづちを打つことしかできなかつたのです。 その時、私は日本語の会話も良くできないながら日本語が本当に上手だと話していたし、私がとて自慢しすぎたことを悟りました。それで次に日本へ行く時には、日本人の友達と日本語でフリートーキングができるぐらひ勉強しよう! と決心しました。

琵琶湖でのキャンプ以来、私は常に自分がまだまだ足りないという考えを持って熱心に勉強してきました。 私は日本語の勉強を通してわかつた「努力すればできる。ただし自慢するな!」ということ胸の中に大事に持ち続けて、未来へ向かつて進むでしょう。 今日のスピーチの結果が良くて日本に行くことになるならば、新しい気持ちで努力することができるきっかけになるのではないかと思います。みなさん、聞いて下さつて本当にありがとうございました。